

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立津山西中学校

教育目標(めざす児童生徒像)

豊かな人間性を持つ生徒
学び合い、磨き合う生徒

今年度の指導の重点

『鍛える』『磨く』『つながる』

- 1 小中連携による基礎学力の定着と学力向上
- 2 道徳教育の充実による規範意識の向上
- 3 生徒会活動の活性化による主体性の育成
- 4 協同学習を通じた生徒同士の人間関係づくり
- 5 教育相談活動の充実

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

《全国》

国語・数学・理科について基礎・活用とも正答率が全国・県平均を下回っている。
国語Aの「漢字の書き」「適切な語句の選択」の正答率は、県全国より高く、「古典の作品名を書く」では、76%が正しく書けており、県・全国を大きく上回っている。
国語Bでは、「自分の考えを書く」が無回答率が20%と高い。
数学Aでは、基本的な計算が苦手な生徒が多い。
「比の意味の理解」の正答率は、全国を上回っているが、式の計算から方程式につながる部分において、等式の変形・移行などの内容が定着していないために、正確に解を求めることができない。
「関数」についての設問の正答率が低い。変数の理解が十分でなく、方程式の持つ意味が理解できていない生徒が多い。
数学Bでは、文章を読み取ったり、記述して説明する問題の正答率が低く、無回答率が高い。
理科では、「地学的領域」「観察・実験の技能」の設問については、正答率が県・全国を上回るものがある。特に「天気図」に関する設問で正答率が高い。

《県》

国語・数学・社会・理科について基礎・活用とも県平均を下回っている。国語の基礎については、県平均とほとんど差がないが、理科については、差が大きい。
国語の「言語についての知識・理解・技能」については、正答率が県平均を上回っており、漢字の読み書きの正答率が高い。
数学について基礎の計算では正答率が県を上回っている設問もあるが、「図形」や「比例・反比例」の問題では県との差が大きい。
社会では、「岡山県の様子」の設問について正答率が県を上回るものがあるが、歴史に関する設問は大きく下回っている。
理科については、「生物の様子」の設問については比較的正答率が高いが、「物のとけ方」「物の燃え方」については特に低い。

【学習状況調査の結果】

毎日定時に寝起きする生徒、毎朝朝食を食べて登校する生徒の割合が全国・県平均に比べて低く、基本的な生活習慣が確立していない様子が伺える。
3年生について「授業のはじめに、目標が示されていた」と答えた生徒の割合は、全国・県を上回っているが、「授業の最後に、授業を振りかえる活動をした」と答えた生徒は下回った。
「自分には、よいところがある」と答えた生徒の割合が3年生では、全国の3分の2、1年生でも県の平均の割合を大きく下回り、自己肯定感の低さが見られる。
家庭学習の時間については、3年生は、長時間する生徒と全くしない生徒の割合が全国・県に比べて高く、二極化が見られる。1年生では、全体的に学習時間が少ない。
「学校の宿題をしている」生徒の割合は、1年、3年とも県・全国よりも高く、特に1年生では100%に近い。
携帯電話やスマートフォンの所持率は、県・全国と比べやや多く、「家の人と約束を守って使用している」と答えた生徒の割合は、少ない。
1日のテレビやDVD視聴時間は、1、3年生ともに全国・県に比べ短い。3年生は、スマートフォン等を使ったゲームをする時間は長い。
1日の読書時間及び「読書が好き」と答えた生徒が昨年度より大きく増加し、1年、3年ともに全国・県を大きく上回った。
「学校の規則を守る」と答えた生徒は、1、3年ともに全国・県を大きく下回っている。
「人の気持ちがわかる人間になりたい」「人が困っているときは、進んで助ける」「いじめはいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたい」と答えた生徒の割合は、1、3年生いずれの設問についても全国・県より低い。
「地域の行事へ参加している」と答えた生徒の割合は、1、3年生ともに全国・県を上回っており、地域とのつながりが見える。

成果と課題

一昨年、昨年に比べ、各教科無回答率が減ってきているが、文章で答える問題に対しては抵抗感が伺える。
授業の「めあて」の提示については、小中連携の共通重点目標としたため一昨年、昨年と上がり、全国・県を大きく上回ったが、「まとも・振り返り」がまだ充分とはいえない。
国語は、漢字の読み書きや適切な語句を選択するなどの設問の正答率が高い。全校共通で漢字練習を家庭学習として課していることや新単元の導入時に語句の意味調べや単文づくりなど辞書を用いて行っていることが成果として現れていると思われる。また、古典分野の正答率が高いのは、作品の作者や時代、ジャンル等の確認テストを合格するまで反復し、学習した成果と思われる。
国語の課題として、「聞き手を意識したわかりやすい言葉に直す」「語句の使い方を工夫して書く」「登場人物の言動から気持ちを読み取る」といった力が足りないことがあげられる。
数学では、基礎的な計算力が身につけていない生徒も多く、上層と下層層に二極化している。
数学・理科・社会では、文章問題の読み取りが充分でないことが誤答や無回答の要因になっていると思われる。
理科・社会では、過去に学習した内容を忘れてしまっている生徒もあり、反復学習で定着させる必要がある。
小・中連携で行っているノーマディア週間の成果が現れ、テレビ等の視聴時間が短い。
規範意識や道徳性を問う設問については、13年生ともいずれも低い。
読書の時間は、昨年に比べ1、3年ともに大きく伸びている。委員会や司書教諭による取り組みの成果と思われる。

課題に対応した改善方法

国語科では、「自分の考えをまとめて書く」課題を全校あげて取り組ませる。字数内にまとめたり、具体例を必ず入れるなど、その都度工夫する点をつくっておく。また、まとめた文章を小グループで読み合い、感想を伝え合ったり、推敲し合ったりする活動なども取り入れるようにする。個人差を考慮し、字数やマス目の大きさを自分で選択し、まずは、書いてみようとする意欲を持たせたい。
数学では、授業に参加しにくい生徒が意欲を持って臨めるよう視覚的にとらえやすい教材を提示したり、生徒同士の教え合いを進めていきたい。また、「なぜ」「どのようにして」といった説明を生徒自らができる場面を授業内に設定し、記述し、説明する力を伸ばしたい。
学期に1回、国語の漢字・数学の基本的な計算の全校一斉朝学習を一週間行い、テストを実施する。
理科や社会は、県・全国の学力調査の過去質問などを利用し、定期的に反復しながら定着させていきたい。
長期休業日の課題として、過去問題を利用する。
生徒の作文や作品、学習内容(社会科の重要用語や国語の四字熟語など)を校内に掲示し、学習環境を整える。
ノーマディアの取り組みにより、テレビやDVDの視聴時間は減ったが、携帯・スマホの使用時間(ゲームも含む)が長かったり、使い方については約束が出来てなかったりするので、ノーマディアに携帯やスマホを入れた取り組みや情報教育などの推進をしていく。
行事や道徳、学活等の時間を利用し、規範意識や道徳心の向上を目指す指導を計画的に行っていく。また、授業の中でグループ学習を意図的に行い、学力の向上とともにあたたかい人間関係づくりを進めていく。

取り組みの検証方法及び検証時期

中2に学力定着状況たしかめテストの実施(11月)
生徒への授業・学習状況アンケート(7月・12月)
ピアサポートアンケートの実施(4月・2月)
学校自己評価アンケートの実施(11月)
ノーマディア週間の取り組み・集計(テスト週間に合わせ実施 学期に1~2回)

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

全ての教科の基礎問題の正答率を県平均に近づける。
宿題をする生徒を全校で95%以上とし、各教科で効果的な内容になるよう検討する。(現在1年98.7% 3年88.8%)
家庭学習を全くしない生徒をゼロに近づける。(現在1年2.7% 3年7.3%)
「自分にはよいところがある」と答えた生徒の割合が全国・県平均を上回る。(現在1年69.8% 3年54.9%)
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた生徒の割合が全国・県平均を上回る。(現在1年94.3% 3年93.4%)